

A SEED JAPAN25 周年アニバーサリーセミナー

ROOTS TO SEEDS～社会貢献を仕事にした人達～

Vol.2



日時：2015年11月12日（木）19：00～20：45

会場：クリエイティブ one 秋葉原ビル8階 ラーニングカフェ

ゲスト：羽仁カンタ氏

参加者：14名

主催：国際青年環境 NGO A SEED JAPAN

開催の趣旨

今や若者のほとんどが社会貢献に対して何らかの関心をもっているこの時代。ただ、「給料」「安定性」など、将来を様々な軸で考えざるを得ない現状もあり、「やりたい！」という思いだけで、将来を決めることには非常に勇気がいります。

一方で、設立から四半世紀が経つ A SEED JAPAN（以下 ASJ）の過去活動者、関係者の数は延べ 500 名を超え、NGO や企業、政治家として活躍している方も多いです。

そこで、社会貢献や NGO・NPO に関心がある学生および若手社会人の中で「社会貢献の仕事をするのに踏み出すにはまだ勇気がいる」「将来何をすればいいのか明確にはわからないけれど、ずっと新しい道を探し続けている」といった人を対象に、過去 ASJ 活動者をゲストに呼んだセミナーを開催することにしました。NGO やボランティアに関わることで得られたものを具体的に話していただくことは、学生や社会人が様々な社会貢献への関わり方や、社会問題へのアプローチ方法を学ぶことにつながると考えられます。

第2回は ASJ 創設者の羽仁カンタさんをゲストに招き、「ASJ をどのようにして創設したか」ということを中心にお話を伺いました。

プログラム 当日の流れ

19:00

開会の挨拶

ゲストを含む参加者の自己紹介 (14名)

ゲストトーク

(フリーディスカッション)

ASJ からの案内、閉会の挨拶

20:45



ゲスト紹介

羽仁 カンタさん ～日本の青年による環境運動の歴史を創ってきた男～

A SEED JAPAN 創設者、現 iPledge 代表

プロフィール

ポリシーは『対等&平等な社会の構築・参加型の社会の実現』。米国留学中に全米学生環境行動連合(SEAC)のボストン支部長など務める。地球サミットに向けた A SEED 国際キャンペーンの活動を通じて、国際青年環境 NGO A SEED JAPAN を 91 年に設立。代表・理事を務め、現在は NPO 法人 iPledge 代表。

全国の野外音楽フェスティバルでのごみを削減する「ごみゼロナビゲーション」活動を 94 年からスタート。フジロックフェスティバル、ap bank fes など年間 30 本のイベントに 2000 人のボランティアを動員した。08 年からは、使用済携帯電話を回収してゴリラを守る「ケータイゴリラ」事業を展開するなど、A SEED JAPAN の基幹事業を創ってきた。2014 年に理事を引退し、独立して新団体を設立。今も多くの若者が主体的に社会に参加できる仕組みを実践中。



<きっかけは大学時代の環境サークル>



『高校卒業後、専門学校など経て、1988年にアメリカのマサチューセッツ州ボストンにある Northeastern 大学に入学しました。1989年に学内環境サークル SEA に加入後、同年第1回全米学生環境会議にマサチューセッツ州代表として参加しました。その会議から「SEAC」（学生環境行動連合、当時の全米学生環境団体の最大ネットワーク組織）が生まれ、1990年には SEAC の活動で原生林保護のための集会と行進を企画し、ボストン市内で 400 人の青年が行進に参加しました。その後 SEA の代表、SEAC のボストン支部長を務めながら、アースデイ財団の学生コーディネーターに選ばれ、1991年3月には 48,000 人が集まる音楽コンサートで 500 人のボランティアを動員しました。今から思えばそのことが後のごみゼロの活動にもつながっていると思います。』

<A SEED 国際キャンペーンに様々な若者をリクルート>

『留学生代表としてスピーチした 1990 年の第 2 回全米学生環境会議で、92 年の地球サミットに世界各地の青年の声を届けるという A SEED 国際キャンペーンが呼びかけられました。そして 1991 年 8 月に A SEED USA /SEAC の派遣で、A SEED 国際キャンペーンを呼びかける国際アウトリーチコーディネーターとして、日本に帰国しました。1991 年 9 月には 5 つの青年団体とともに、A SEED JAPAN キャンペーン開始の記者会見を開きました。

その後は、(1) 国内の若者たちとつながろう (2) 海外とつながろう (3) 国連の会議に参加して提言活動をしよう という 3 つのキーワードで様々な若者をキャンペーンにリクルートし、各地で集会を開きました。

1992 年 3 月に地球サミットの国連準備会合に日本から 18 人の若者を連れて参加した際には、ニューヨークの国連本部ビルに忍び込み、ビルの上から「アースサミットハイジャック」（企業にハイジャックされているという意味）という横断幕を垂らしたり、道路に UNCED/UNSEID（地球サミットは何も言わない）と文字を書いたりするなどのアクションを行いました。

<逆をやろうと考えた>

『地球サミットが閉幕して A SEED 国際キャンペーンが終わった後は、会員制組織としての A SEED JAPAN が発足し、最初は事務局長を務めました。初めに行った大きな企画がスピーカーツアーです。A SEED 国際キャンペーンの時は日本の学生を積極的に海外に連れて行こうという動きをして、結果的に 30 人位しか連れていけなかったのも、逆をやろうと考えました。海外から 27 人の若者のゲストを招いて、日本全国の地域をまわって、それぞれの地域環境サークルと交流させ、最後に広島に集結して国際会議を行うというツアーを企画実行しました。

その後代表を務めました。1994 年からはリーダーシップトレーニングやごみゼロの活動を開始しました。

ワークショップ、フリーディスカッション等 ゲストと参加者の意見交換

<アメリカと日本では学生に対するイメージが全く異なる！>

参加者：「環境活動に関して、アメリカと日本のギャップはどう感じましたか？」

羽仁：「アメリカでは学生が環境活動しているというとわんさか寄付が集まりますが、日本では協賛金が全然集まりませんでした。社会から見た学生のイメージは、アメリカでは学生＝「しがらみのない、中立」ですが、日本では学生＝「信頼がない」とかなり異なっていたりします。アメリカと日本の環境活動の成熟度のあまりの違いに驚き、日本のそれをなんとかしたいと思ったのも、アメリカに帰らず ASJ を続けたきっかけになりました。」

<1人1テーマ話せるようになろう！>

参加者：「A SEED JAPAN が設立された当時と比較して、現在の学生をどう感じていますか？」

羽仁：「90年代初頭の学生はみなギラギラしており、羽仁カンタを利用してのし上がっていかうという人がゴロゴロいました。いまの学生にはそういうものがないと感じますが、それは日本の社会や政治が若者の未来を奪っているせいだと思います。それでいま iPledge では”1人1テーマ話せるようになろう”ということをしています。なんでもいいから1テーマ話せるようになると、それが本人の情熱や自信につながっています。」



編集後記

カンタさんのとても気さくでフランクな語り口が印象的でした。また同時に、長年活躍しているアーティストにも似た、肚の座り方の大きさを感じました。今回のトークを聴いて、誰でも対等に、平等に接し、全員参加型の議論を重ねていくという、ASJの組織文化の基本はカンタさんが作ってきたのだらうなということがよくわかりました。またその文化は日本社会の大半の組織において未だ実現できていないことであり、ASJの貴重な財産であると思いました。ASJに関わったものとして、そうしたルーツを受け継ぎ広めることを意識していきたいと思います。(ピロ)